

# 運用ビジネス

当グループの運用ビジネスは、三井住友トラスト・アセットマネジメントと日興アセットマネジメントを中心に、資産運用サービスをお客さまへご提供しています。グループ合計で、アジア最大級となる約87兆円の資産運用残高を有しています。



三井住友トラスト・アセットマネジメント  
代表取締役社長

**菱田 賀夫**



日興アセットマネジメント  
代表取締役社長兼共同CEO 代表取締役会長兼共同CEO

**安倍 秀雄**

**佐谷戸 淳一**

当グループは、機関投資家から個人のお客さままで、多様な資金をお預かりし運用する立場にあります。これからもグループの運用機能を最大限に生かして、お客さまに最適な資産運用ソリューションをご提供するとともに、投資先へのESGエンゲージメント等を通じて社会課題の解決に貢献していきます。

三井住友トラスト・ホールディングス 取締役執行役専務

**荒海 次郎**

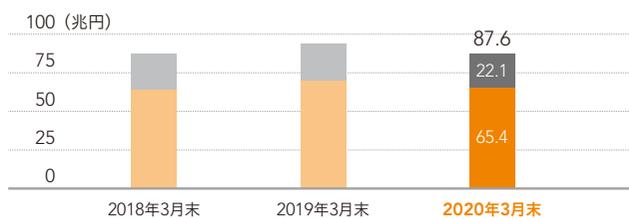


## 中長期的に目指す姿

グローバルな資産運用市場は長期的に今後も成長が見込まれる一方、地政学リスク、新型コロナウイルス感染症などのパンデミックリスクに加え、競争激化や規制強化による運用手数料低下圧力が一層強まっており、短中期的なビジネス環境は不透明さを増しています。

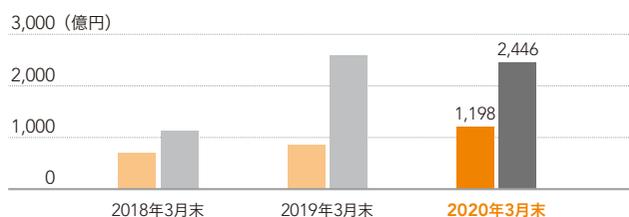
こうした環境を機会と捉え、グループ内に特長が異なる運用会社を複数持つ強みを生かし、パッシブからアクティブ、オルタナティブまでフルラインをカバーして、国内外の機関投資家から個人まで幅広いお客さまの多様化する投資ニーズにお応えしていきます。

資産運用残高\*  
[三井住友トラスト・アセットマネジメント、日興アセットマネジメント]



\*2018年10月以降は一部三井住友信託銀行の資産運用残高を含む

資産運用残高 [スカイオーシャン・アセットマネジメント、JP投信]



■ スカイオーシャン・アセットマネジメント ■ JP投信

## 事業環境認識

### 環境認識・課題

- グローバルな資産運用市場の拡大
- クロスボーダーな再編等による資産運用会社の巨大化
- パッシブ化、競争激化、規制などによる報酬率への低下圧力
- 非流動性資産に対するグローバルな投資ニーズの高まり

### 機会・当グループの強み

- 国内外の機関投資家から個人まで幅広い顧客のニーズに応え得るビジネス基盤
- 信託銀行を源流とする資産運用領域において、企業年金ビジネスでの高いプレゼンス
- 国内投資信託マーケットにおける幅広い販売チャネル
- グループ海外拠点と戦略的パートナーでカバーされるグローバルなネットワーク

## 中期経営計画での重点施策



※PB: プライベートバンキング

### ■ 伝統資産運用とプライベートアセット機能の強化

日本・アジアで最大級の資産運用残高を有するグループとして、運用力にさらに磨きをかけ、グローバル市場でもプレゼンスを発揮していきます。運用会社各社が現在ご提供している、マルチアセット、スマートβ、伝統資産アクティブ、インデックス、ETFといった高流動性資産による従来のソリューションに加え、貸出債権、不動産、プライベートエクイティといったプライベートアセットへの投資領域の拡張を目指します。

### ■ グローバル展開の加速

運用会社間の競争などによる報酬率への低下圧力が強まるなか、運用ビジネスの持続的な成長を実現するために、グローバル展開の重要度が高まっています。運用会社各社それぞれの特長を生かした海外ビジネスの拡大に加え、海外の運用会社への提携戦略(出資などを含む)を通じ、グループとしてグローバル展開を加速していきます。

### ■ 顧客基盤の拡大

グループの運用機能を最大限に生かし、さらに多くの機関投資家、DCのお客さまに対して最適なソリューションをご提供していきます。国内リテール市場においては、投資家の皆さまの長期にわたる資産形成に資するファンドをご提供してさらなるプレゼンス向上を目指します。また、当グループの有する資産運用ノウハウを、スカイオーシャン・アセットマネジメントとJP投信に提供することを通じて、地域金融機関等の幅広いお客さまに資産運用サービスを展開していきます。

### ■ 社会課題解決への貢献

当グループは、PRIをはじめとしてさまざまな国際的イニシアティブに参画し、グローバルベースで先駆的なESG活動を行ってきました。ESGを考慮することにより、中長期的な投資リターンの最大化を目指しています。また、国内外の幅広い投資先企業を対象としたエンゲージメント活動を通じ、社会課題解決や企業価値向上を図っていきます。

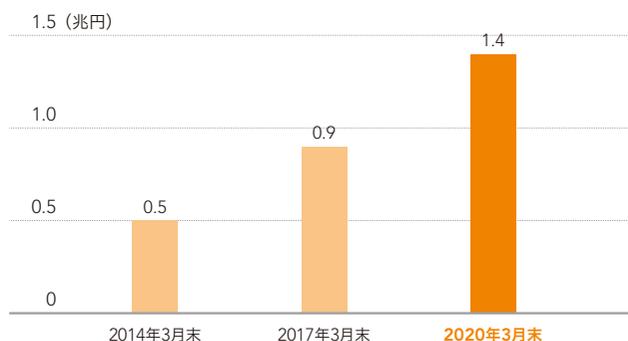
## 三井住友トラスト・アセットマネジメント

アジアNo.1規模の資産運用残高を有し、これまで培ってきた国内の機関投資家へのプレゼンスに加え、成長分野である国内リテール市場で、より一層の成長を目指します。

強固な顧客基盤を有する国内のDC市場においては、お客さまのニーズを踏まえた商品ラインアップの拡充とサポート体制の強化を図ります。

また、2019年6月に協業を開始した、英国最大の資産運用会社リーガル・アンド・ジェネラル・インベストメント・マネジメント(LGIM)社の知見を活用したESGエンゲージメント活動を一層進めていきます。

DC投信



### サステナビリティへの取り組み

#### 責任投資原則(PRI:Principles for Responsible Investment)への対応

当社、三井住友トラスト・アセットマネジメント、日興アセットマネジメントは、2006年5月に発効した国連がサポートする責任投資原則に署名しています。本原則は、年金基金や運用機関など機関投資家に対し、投資の意思決定に際してESG(環境・社会・ガバナンス)を考慮するよう求めるものです。当社は発足時署名機関として、日本のESG市場の拡大に主体的な役割を果たしてきました。



#### 三井住友トラスト・アセットマネジメント

PRIへの加盟時期	2006年5月
トータル運用資産残高 (うちESGの取り組み残高)	62兆円(21兆円)*
ESGに対する考え方	ESGは財務情報に表れない非財務領域の課題であり、時間の経過とともに企業価値に大きな影響をもたらす可能性があるとの考えの下、同課題への対応を、エンゲージメント、議決権行使とともにステewardシップ活動の重要な構成要素と位置付けています。これらの活動によりインベストメント・チェーンにおける運用機関としての役割を積極的に果たし、お客さまのリターン最大化、SDGs達成に貢献します。
具体的なESGの 取り組み内容	エンゲージメントや議決権行使などを通じ、投資先企業がESG課題に取り組むことで持続的に成長していくことを求めます。現在の主要ESG活動テーマは、①気候変動問題、②水資源・海洋汚染問題、③ガバナンス改革の後押し、④ESG情報開示の促進の4点としています。これらのESG課題の認識を企業と共有し、時間軸を踏まえた対応の策定およびその開示を促すことにより、課題改善に資する活動を進めています。また、国内外株式・国内外債券の全アクティブプロダクトでESG要素の取り込み(ESGインテグレーション)を実施しています。これにより、お客さまの中長期的な投資リターンの最大化やダウンサイドリスクの抑制、さらには持続可能な社会の実現を促しています。
PRIアセスメント状況 (2019)	総合評価:A+(5年連続) (責任投資への統合状況:A+、アクティブ・オーナーシップ:A+(エンゲージメント:A+、議決権行使:A+)、債券投資:A)

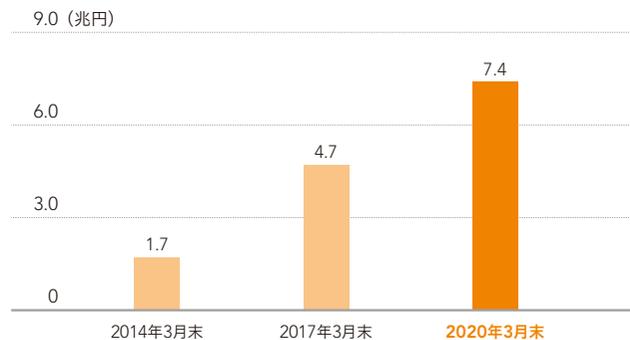
\*全ての運用資産で議決権行使を実施しているため、議決権行使をESG投資に含めると、ESG投資比率はほぼ100%となります。  
詳しくは三井住友トラスト・アセットマネジメントの「STEWARDSHIP REPORT 2019/2020」をご覧ください。  
[https://www.smtam.jp/file/06/stewardship\\_report.pdf](https://www.smtam.jp/file/06/stewardship_report.pdf)

## 日興アセットマネジメント

世界11カ国の拠点（JV含む）のネットワークとそれらを積極的に活用したユニークな商品開発力、国内で定評のある販売会社へのサポート等の強みを生かし、お客さまに革新的な商品やサービスをご提供していきます。また、持続的な成長に向けて、海外におけるディストリビューションの強化や、非流動性資産を含む投資領域の拡張による商品ラインアップの多様化を進めます。

日本有数の規模を誇るETFビジネスでは、アジア市場を中心にグローバル展開を進めることで、グローバルでのETFビジネスを強化しています。シンガポール、香港、英国のETF担当者との協働を進めることにより、業界をリードしていきます。

### 国内ETF残高



### サステナビリティへの取り組み

#### 日興アセットマネジメント



PRIへの加盟時期	2007年10月
トータル運用資産残高 (うちESGの取り組み残高)	22兆円(8.7兆円)*
ESGに対する考え方	資産運用会社として、お客さまの利益を最優先に行動することを使命とし、フィデューシャリー原則とESG原則を企業理念と企業活動の最高位に位置付けています。Environment(環境)、Social(社会)、Governance(企業統治、ガバナンス)を投資に反映させることが企業の長期的な価値の向上と、持続可能な経済成長に貢献していくとの信念から、あらゆる投資意思決定プロセスにESGの原則を取り込み、受託者責任を果たすことに努めています。
具体的なESGの 取り組み内容	日興アセットマネジメント(日興アセット)の「ESGグローバル・ステアリング・コミッティー」は、四半期ごとにESG投資の取り組みや実践方法、新たなアプローチ方法などを協議・模索するとともに、その確定や実現などを推進しています。国内外の運用拠点のリーダーを中心とする委員と、多数のオブザーバーが参加する同コミッティーの運営は、日興アセットのESG専門職であるESGスペシャリストが執り行います。ESGスペシャリストは、各運用チームのESG活動支援、ESGに関する方針の策定、ESG関連の各種イニシアティブへの参加検討やその活動支援、協働エンゲージメントのコーディネートなどにも従事します。 日興アセットは、中長期的に超過収益を実現するためには、運用プロセスにESGを適切に組み入れていくことが重要と認識しています。日興アセットの全ての国内株式アクティブ運用戦略には、ESG価値評価を含むCSV(Creating Shared Value:共有価値の創造)評価が組み込まれています。CSV理論を応用したスコアは、企業がESG課題への取り組みと収益性や競争力の追求のバランスを取りつつ、社会と株主の双方のために価値を生み出しているかを評価します。日興アセットのアナリストが企業との継続的なエンゲージメントを通じて、企業の前向きなESGの取り組みを積極的に評価しています。
PRIアセスメント状況 (2019)	総合評価:A+(6年連続) (責任投資への統合状況:A+、アクティブ・オーナーシップ:A+(エンゲージメント:A+、議決権行使:A+)、債券投資:A+)

\*日興アセットマネジメントはあらゆる投資意思決定プロセスにESGの原則を取り込み、受託者責任を果たすことに努めています。

詳しくは日興アセットマネジメントの「2019サステナビリティレポート」をご覧ください。

[https://sustainability.nikkoam.com/files/pdf/annual-report/nikko\\_am\\_2019\\_sustainability\\_report\\_jp.pdf](https://sustainability.nikkoam.com/files/pdf/annual-report/nikko_am_2019_sustainability_report_jp.pdf)